

青葉小だより

平成28年11月29日 文責 校長 田中 理章

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

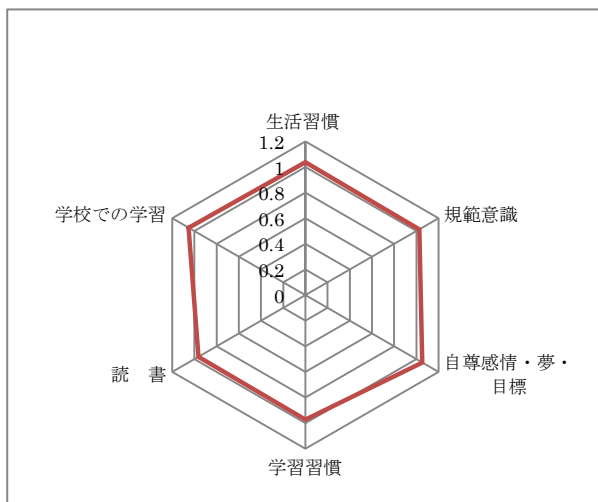
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることにはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全体的に、全国平均正答率を上回っており、基本的な知識・技能の定着が図られている。特に、書く力を問う問題の正答率が前年度より大きく伸びている。日々の授業において、自分の考えを書くことを習慣化した成果が表れている。 ローマ字に苦手意識を持つ児童が多いことも分かった。	上回っている
国語B	全体的に、全国平均正答率を上回っている。自分の考えを記述する問題で正答率が全国平均正答率を大きく上回ることができた。 依然として、「話すこと・聞くこと」に関する問題や指定された文字数で課題を書く問題等に苦手意識があることも分かった。	上回っている
算数A	全国平均正答率を大きく上回っている。無解答がなく、基本的な問題の計算間違いも少ない。基礎基本の定着がしっかりと図れている。 割合や数直線図の表現等に課題が残る。今後は、数量の関係を図や表に表したり、図や表を基に考えを発表したりする学習に取り組ませていく必要がある。	上回っている
算数B	全体的に、全国平均正答率を上回っている。特に、数量や図形についての技能や知識・理解が高く、学習した内容を様々な場面に活用する力が付いてきていることが分かる。 式の数字が何を表しているかを論理的に記述する点に課題が残る。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



＜質問紙調査の結果分析＞

- ・全体として肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均の割合と同程度であり、好ましい結果であるといえる。
- ・学校での学習では、「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。」の項目で、前年度の割合を10ポイント近く上回っていた。日々の授業改善の成果が表れてきていることが伺われる。
- ・規範意識や生活習慣では、依然として高い割合を維持することができた。家庭との連携の成果であるといえる。
- ・「読書が好きだ。」という児童の割合が、若干減っている。今後も、意欲的に本の紹介や読書時間の確保し、日常的に読書に親しむ態度を育てていきたい。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
 - ・正答率が低かった学力テストの問題を解き、具体的な指導方法を話し合う。（全職員）
- 補習授業の実施
 - ・週3回の「寺子屋タイム」を月、水、木曜日の給食準備時間や昼休み時間に実施する。
（校長、教頭、教務主任、担任外教員）
 - ・週2回の「放課後ひまわり学習塾」を火、金曜日の放課後に実施する。
（放課後ひまわり学習塾指導員）
 - ・その日の授業中のつまづき解消策として「放課後寺子屋タイム（15時～16時30分）」を毎日行う。
（教務主任、担任外教員、各担任）
- 基礎的・基本的な内容の定着を図る朝自習（8：40～8：50）
 - ・週2回実施の計算タイム（水・金）の内容を見直し、確実に実施する。（担任外教員・学年）
 - ・週2回実施の国語タイム（火・木）の内容を見直し、確実に実施する。（担任外教員・学年）
 - ・週1回の「いきいきタイム」（月）には、話す力・聞く力を高めることをねらいとした活動を行う。
（学年）
 - ・過去問題、活用力を高めるワーク、ドリルプリントなどを効果的に活用していく。（学年）
 - ・国語科・算数科の基礎的・基本的な指導事項（内容）まとめたプリント集を作成し、周知徹底する。
（教務主任・学年）
- 音読暗唱ブック「ひまわり」の活用
 - ・校内「暗唱発表会」を年3回実施し、児童の意欲を高めると共に国語（古典）への興味をもたせる。
（全職員）
 - ・校内「自学ノートコンテスト」を毎学期実施し、主体的に学んでいく力を育てる。（教務主任・全職員）

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化
 - ・全学年で、自主学習を推進する。「自学ノートコンクール」を企画し、実施する。（全校）
 - ・全学年に「家庭学習の約束（1年生～6年生）」を配布し、保護者の家庭学習に対する意識を高める。
（全校）
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック（ダイジェスト版）」を大いに活用する。（学年）
 - ・毎日、漢字・計算等の宿題を必ず出すことで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。（学年）
- 長期休業期間中の宿題量の学校統一
 - ・夏休みは、B4両面30枚（表：国語、裏：算数）、B4両面10枚（他教科）以上を基本とする。
（全校）
 - ・冬、春休みは、B4両面10枚（表：国語、裏：算数）、B4両面3枚（他教科）以上を基本とする。
（全校）
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り、学校HP、学年・学級通信等で、児童の学習状況等を発信する。
（校長・教頭・教務主任・各担任）